

事業団だより

～わたしからあなたへ… まごころ発信～

第100号

社会福祉法人

大分県社会福祉事業団



大分市大津町2丁目1番41号

大分県総合社会福祉会館

TEL (097) 552-1316

FAX (097) 552-1094

<http://www7.ocn.ne.jp/~oitaswo/>



SWO

100号記念 特集

より充実した紙面を目指して

大分県社会福祉事業団 理事長 首藤 忍



社会福祉事業団が昭和四十九年七月から発行を重ねてきた

広報紙「事業団だより」が今年100号を迎えることが出来ました。

振り返ってみると、事業団は、県立の障害者福祉施設の運営管理にあたる社会福祉法人としてスタートしたのが、昭和四十二年十月であり、爾来、昭和の時代そして平成の時代とほぼ半世紀の歴史をきざみ、障害者福祉施設の運営を通して地域社会に貢献してきたところであります。

そして、昭和四十九年七月から発行している「事業団だより」は、事業団の広報紙としてその時々々の事業団の動きやそのあり方を含む全体的な福祉の動向について内外にPRしてきたところであります。

この間の「事業団だより」の編集発行にかかわってこられた数多くの職員、そして寄稿をいただきました方々のご努力に対して、この機会に心より感謝を申し上げる次第であります。

今日、社会福祉をとりまく環境は年を追うごとに厳しさを増し、特に国の財政逼迫を反映し、将来に

向けての社会福祉の充実に関する展望が極めて暗いものとなっております。こうした中でこの「事業団だより」の役割は、事業団としてこれから何をすべきか、そして私共職員はその与えられた役割をどう果たさなければならぬのか、についての教育PR紙としての役割を一層果たしていかなければならないわけであります。

また、こうした内部広報紙としての役割のみでなく、これからの社会福祉全般にわたる国内情勢やその中で施設としてのあるべき姿のPRや研修資料提供の役割など、今後より重要な役割を果たしていく必要があると考えております。

私共としては、ご利用者の安心、安全、快適性の実現に向けて、より充実したサービスの提供を心掛けなければならない立場でありますが、そのための内部広報紙としてどのような役割を果たすことが出来るのか、についての紙面の充実や福祉制度をめぐる国や自治体の動き、さらには職員の投稿の促進、他の社会福祉法人の活動状況、関係団体の動向など、よりバラエティに富んだ編集技術の向上の必要性があるのではないのでしょうか。事業団広報紙として皆さんで盛りあげようではありませんか。

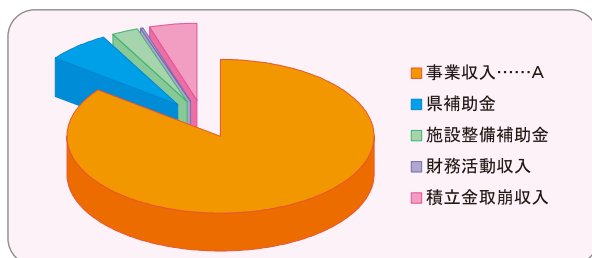
平成24年度大分県社会福祉事業団決算状況

一般会計(38区分)・公共事業(3区分)・その他特別会計(6区分)

【収入の部】

(単位：千円)

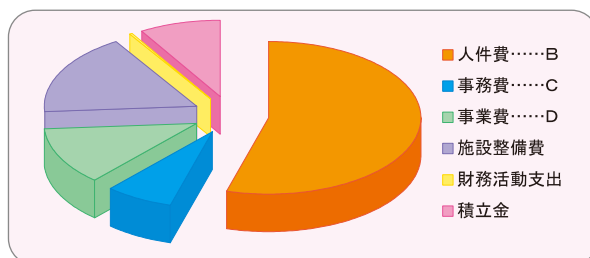
科 目	金 額	収入内訳
事業収入……A	3,164,930	自立支援費、措置費、雑収入等
県補助金	250,000	県からの補助金
施設整備補助金	109,050	助成団体からの補助金
財務活動収入	12,499	全事協・互助共励退職金取崩
積立金取崩収入	180,755	積立金取崩
収入合計	3,717,234	



【支出の部】

(単位：千円)

科 目	金 額	収入内訳
人件費……B	1,971,012	職員の給与、退職金など
事務費……C	259,534	事業所の修繕・業務委託費など
事業費……D	439,481	利用者の給食・教養娯楽費など
施設整備費	620,045	固定資産(建物、器具及び備品等)
財務活動支出	11,495	年金共済・互助共励掛け金
積立金	310,000	建物改築など積み立て
支出合計	3,611,567	



貸借対照表 (平成25年3月31日現在)

47 会計区分

(単位：千円)

(単位：千円)

勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
流動資産	1,423,529	流動負債	797,549
固定資産	5,717,583	固定負債	206,405
		負債合計	1,003,954
		基本金	3,000
		国庫補助等特別積立金	2,707,888
		積立金	916,116
		次期繰越活動収支差額	2,510,154
		純資産合計	6,137,158
資産合計	7,141,112	負債、純資産合計	7,141,112

前年度との比較分析

23 年度決算		24 年度決算	
人件費比率(%)	65.3	人件費比率(%)	62.3
事務費比率(%)	9.6	事務費比率(%)	8.2
事業費比率(%)	14.5	事業費比率(%)	14



事業団だより100号によせて

先輩方から



佐藤 一郎

「事業団だより」
創刊100号おめでとう
ございます。

試行錯誤しながら
続けることが出来た
ことはこれまでに
事業団の社会福祉を

実践できた証だと思っています。

私は、3月末で38年間の事業団勤務を終える
ことが出来ました。現在の心境は「ご利用者の
人生を支えること」の緊張を後輩の職員に
バトンタッチできてホッとしています。

私と「事業団だより」の思い出は、一つは
所属長の時に書いた文中で使用した福祉の
仕事に対する姿勢を表した『不易流行』と
いう言葉であり、もう一つは旧なおみ園の
玄関で撮った村主催の「敬老会」に出席する
ご利用者6名の表紙写真です。ご利用者の
加齢化も進み亡くなる方も増えているのが
現実で寂しい限りです。

事業団の課題としては「協力し合える組織」
をもっと前進させて欲しいと思います。一体感
のある組織を醸し出すためには、お互いを
思いやる気持ちでコミュニケーションを図る
ことがとても大切です。これからはいろんな
形でいろんなことを多くの人に発信してくだ
さい。大きな発信力を持った組織は発展する
と確信します。「事業団だより」もその一つ
です。全職員の知恵を集めれば、新たな一歩
を踏み出せるはずです。期待しています。



染矢 ひろみ

表紙から1頁2頁と張り詰めた気持ちで
めくって行く。最後の頁に辿り着き頭の中
では「訂正文」は？ 作らなくて良かったあ
と大きな溜息をつく。

事業団だより・編集委員の肩書きで広報の
役割をさせていただいていた数年間、当時は
年4回の発行回数であったと思いますが、今
振り返っても毎回ゆつたりとした気持ちで受
取れた記憶は一度もなかったように覚えて
います。多くの皆様の元にお届けして来た
事業団だより、日々前向きに生きている利用者の
皆さん方のこと、模索の中に笑顔で向き合う
現場の職員の皆さんのことを真中に据えて
大分県社会福祉事業団をいかにアピールでき
かに頭を悩ましていたような気が致します。
それぞれの職場から集まって企画・レイアウト・
校正と編集作業は進められますが、原稿は
「お願いして書いていただく」ということが
基本でそのことを通して、お願いすることの
難しさ・快く協力していただく有り難さなど
福祉サービス現場では体験出来ないことを
学ばせていただきました。ご活躍のステージと
チャンスをもたらした広報委員皆さん方、五感を
研ぎ澄ませ好奇心をむき出しにして「ワク
ワク」を感じさせてくれる紙面作りで存分に
力を発揮されますよう期待申し上げます。
「事業団だより」100号発刊！「本当におめで
とうございます。」



中村 勝幸

「事業団だより」が
創刊100号を迎えられ
たこと、心からお祝
い申し上げます。

私事ですが、本年
3月末で定年退職を
迎え事業団を去り

ました。私も編集委員を通じて、気まぐれな
読者に如何に読んでもらうか、広報の難しさや
楽しさを学びました。入団当時は、机の上には
そろばんと鉛筆くらいで、複写機やPCと
言った現在の利器は無く、事務全てが手書きの
時代でした。今思えば「仕事は、時代とともに
変わる。」という至極当たり前のことを業務を
通じ経験させていただきました。寄稿の機会を
頂き、改めて過去を振り返るとき、苦楽を共に
してきた職員の皆さんやご利用者の方々の姿が
思い出され、「事業団だより」は、思い出の
アルバムのような存在となっています。勿論、
時代遅れの自身の古い経験もその中に含まれ
ますが…。

ITの活用が進展し、仕事の方法や情報
収集・伝達手段が大きく様変わりし、広報も
ホームページが主流となっています。事業団
の福祉の歴史を形にした「事業団だより」は、
その軌跡の証といって良いと思います。そこ
には、福祉の原点とも言えるべき先達の残して
いただいた汗の結晶が散りばめられています。
紙面を飾るご利用者の笑顔をみるにつけ、
そのことを思わずにはいられません。
これからも、わたしからあなたへ変わらぬ
まごころを発信し続けてほしいと思います。



大分県深泉寮

保入 保通
GH CH
就移 就B
相談



寮長 川谷 龍真

救護施設
定員:120名

救護施設とは新生活保護法によって定められた、生活に困窮する方々への支援を行う福祉施設です。ご利用者には施設生活の継続はもちろん、他法施設への移行、地域生活への移行等次の展開を明確にして、意向に添った個別支援計画を策定することでメリハリのある自立した安心・安全な生活が送れるように支援しています。また事業としては施設利用から共同生活援助事業、就労移行支援事業と一般就労までの道筋を整備して、地域生活移行の促進に努めています。皆様に愛され必要とされる施設を目指します。



法人本部事務局

総務企画部
総務課
企画課



事務局長 青木 繁

大分県総合福祉会館3階

昭和42年10月4日に公立民営の社会福祉法人として設立され、平成17年4月1日から完全民営化の道を歩みました。法人設立以来、46年余り、県内最大規模を誇る社会福祉法人としての役割を果たすべく、「安心」「信頼」「感動」の事業団ブランドの確立を合い言葉に、職員一丸となつてご利用者の方々が地域や施設の中で安心して快適にその人らしい生活を送ることができるよう、きめ細かい支援に取り組んでいます。今後も地域の人々から愛され、地域と共に発展する、開かれた施設づくりを目指してまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。



大分県社会福祉事業団の各施設を紹介します



地域総合支援センター / サポートネットすまいる



管理課
支援第一課 (猿渡)



支援第二課 (四日市)

CH GH 居介
重訪 行援 同援
訪問 移動 日中
就移 就A 就B
就生 相談



センター長 山本 公則

当センターは、主に地域で生活されている障がい者の方を対象に、就労に向けての支援や生活全般にわたる様々な支援を行い、障がい者の方が地域で安心して生活を送れるよう努めています。また、在宅の障がい児の方に日中活動の場を提供し、その家族の介護の負担軽減を図り、在宅生活の支援を行っています。今後、当センターが、県北地区の福祉拠点となるよう、関係機関等と協力し地域生活支援体制の構築に努めたいと考えています。



大分県糸口学園

生介 施入
短期 日中
児入 児発
放テ



園長 佐々木 弘幸

指定福祉型障害児
指定障害者支援施設
定員:50名
定員:60名

糸口学園は、昭和40年に児童施設として開設し、48年目を迎えています。また、平成4年には成人棟を開設し、児童と成人を併設した施設となりました。こうした歴史の中から育まれた方針は、今も受け継がれ、児童は成長をキーワードにした支援であり、障がいの重い方達には、安心して暮らせる場の提供をすることです。今後私たちは、諸先輩方の築いた歴史の重みを噛みしめ、学園に課せられた使命を職員と共に果たさねばならないと考えています。



大分県のぞみ園

生介 日中
施入 居介
短期 移動
重訪 相談



園長 立川 邦彦

指定障害者支援施設
定員:80名

地域で「大切にしたい企業」の食品会社が長野県にあるという。相談支援事業による在宅者の利用の増加、現施設利用者に根強い要望論があるケアホームの創設、そして、地域住民に期待感が高い災害時の避難場所としての機能、これらは今後のぞみ園に求められ期待される進むべき道である。そこには、事業所が備えるべき「安全」とそれに伴う利用者の「安心」が見えてくる。地域から「大切にしたい」といわれるのぞみ園でありたい。

就生 障害者就業・生活支援
GH 共同生活援助(グループホーム)
CH 共同生活介護(ケアホーム)

居介 居宅介護
重訪 重度訪問介護
行援 行動援護

同援 同行援護
訪問 訪問介護
移動 移動支援

日中 日中一時支援
相談 相談支援
保入 保護施設入所

保通 保護施設通所



大分県系口第二厚生園

生介 日中
施入
短期



園長 松本 宗太

指定障害者支援施設
定員:60名

また、在宅障がい者の皆さまに生活介護や短期入所、日中一時支援の利用促進と高齢・重度化に対応した支援や居住環境の改善（ケアホーム等）に取り組んでまいります。今後とも皆さま方のご理解と温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

当園は、宇佐平野の高台に位置しており、屋上からは美しい周防灘が一望できます。一昨年度末に、移転改築、全室個室と二部屋になっており、幅広い年齢層の方々に對して望む福祉サービスを提供できるよう、目配り・気配り・思いやりのある施設づくりに、職員一同取り組んでいます。



大分県系口厚生園

自生 生介
日中 施入
短期



園長 白石 正信

指定障害者支援施設
定員:60名

厚生園は、施設入所支援、生活介護、生活訓練事業、その他、在宅障がい者の支援として、短期入所支援、日中一時支援事業を行っております。今後は、ご利用者の地域生活を含め選択肢を拡げる事業展開を宇佐地区の施設と協力しながら推進していきたいと考えております。そうすることで、ご利用者の方々がさらに自分らしく、いきいきと楽しい生活ができるよう職員と一丸となって支援していききたいと思っております。

昭和58年に開設した当園は、今年11月に開園30周年を迎えます。耶馬日田英彦山国定公園内、日田市西方のやや山間部にあって、緑に囲まれた落ち着いた雰囲気です。ご利用者は現在85名で平均年齢は60歳、比較的高齢の方や、知的障がいとともに身体障がいや併せ持つ方のご利用が多いため、安全・安心・快適な生活の提供を第一義に、栄養ケアを含めた個別支援を行っています。

地域生活支援センターはぎの

大分県日田はぎの園

GH
CH
居介
重訪
同援
移動



園長 兼
センター長 穴井 貴雄

生介
施入
短期
日中



指定障害者支援施設
定員:80名

当センターは平成13年、県の知的障害者生活支援事業を日田はぎの園が受託したことが始まりです。その後、18年には障害者就業・生活支援センター事業へと発展し、同時期に居宅介護等事業や共同生活援助事業の機能も併設しました。また、長く本体施設のサテライトでしたが、24年に、独立し、同年7月には建物の新築移転とともに新たに児童発達支援事業も開始、本年は相談支援事業を始めました。在宅サービスの拠点として、より一層地域に定着していくことを目指しています。

なお、2年後の移転改築を見据え、職員一丸で改築プロジェクトにも取り組んでいます。

昭和58年に開設した当園は、今年11月に開園30周年を迎えます。耶馬日田英彦山国定公園内、日田市西方のやや山間部にあって、緑に囲まれた落ち着いた雰囲気です。ご利用者は現在85名で平均年齢は60歳、比較的高齢の方や、知的障がいとともに身体障がいや併せ持つ方のご利用が多いため、安全・安心・快適な生活の提供を第一義に、栄養ケアを含めた個別支援を行っています。



大分県なおみ園

生介 施入 短期
就B 就生 GH
CH 居介 同援
重訪 訪問 移動
日中 行援 相談



園長 三井 久満

指定障害者支援施設
定員:60名

なおみ園は、平成23年3月の改築を契機に定員を60名の施設入所に増員して、50名の生活介護と10名の就労継続支援B型事業を実施しています。ご利用者の加齢化が進む中、安心して暮らせる体制づくりと地域の方々からの相談を受け、サービスの提供にたぎ安心して暮らせる地域づくりを目指しております。今後、施設入所希望者が減少することから在宅生活に近いグループホーム事業の展開から施設サービスの見直しが必要であると考えています。

なおみ園は、平成23年3月の改築を契機に定員を60名の施設入所に増員して、50名の生活介護と10名の就労継続支援B型事業を実施しています。ご利用者の加齢化が進む中、安心して暮らせる体制づくりと地域の方々からの相談を受け、サービスの提供にたぎ安心して暮らせる地域づくりを目指しております。今後、施設入所希望者が減少することから在宅生活に近いグループホーム事業の展開から施設サービスの見直しが必要であると考えています。



大分県系口通勤寮

短期 自生
自宿



寮長 土屋 裕道

自立訓練事業所
定員:30名

昭和56年開設以来、213名の方が利用しています。今後も通勤寮卒業生が増えるよう頑張ります。

系口通勤寮は、今年2月に移転改築し、3月に引越しまして、新年度のスタートを切りました。自立訓練（宿泊型・生活訓練）事業に取り組んでおり、ご利用者の就労と生活を一体的に支援し、2年間でグループホームやアパートへと地域生活に移行していただく、架け橋的な役割を担っています。

- | | | | | | | | |
|-----------|--------------------|--------------|---------------|-----------|---------------|----|----------|
| 施設系サービス | 児童福祉系サービス | 就労系サービス | 在宅系サービス | 相談支援サービス | 教護施設サービス | 就移 | 就労移行支援 |
| 生介 生活介護 | 短期 短期入所支援(ショートステイ) | 自宿 自立訓練(宿泊型) | 児入 福祉型障害児入所施設 | 児発 児童発達支援 | 放テ 放課後等デイサービス | 就A | 就労継続支援A型 |
| 施入 施設入所支援 | 自生 自立訓練(生活訓練) | | | | | 就B | 就労継続支援B型 |



事業団だよりのあゆみ

号外

〈第3号～第4号の間
昭和51年6月〉



100号の歴史の中でたった一度だけ!?
幻の「号外」があったんです!!
ちなみに内容は研修報告でした。

事業団さ章決定!

〈第7号 昭和53年5月〉



裏には事業団名が入っています。
ご存知でしたか?

事業団
10周年
(昭和52年)

事業団だより 創刊号

〈第1号 昭和49年7月〉



創刊号が発行されたのは、今から
約40年前。旧糸口第二厚生園の
建設中でした。

昭和56年4月



糸口通勤寮完成

昭和52年4月



なほみ園完成

昭和51年4月
糸口福祉センター
管理部設置

ご利用者の結婚

〈第31号
昭和62年6月〉



通勤寮より初めてのカップルが誕生しました。
この後も続々とカップルが誕生しました。

結婚・出産シリーズ

〈掲載期間：第10号～第75号〉

事業団で働く職員の結婚・
出産を取材し、写真付きで紹介
していました。

とても人気のあるシリーズ
で、各職場で話題に上がる
こともしばしば…

「病は気から」 「心のシグナル」 シリーズ

〈掲載期間：第7号～第77号〉

長年、糸口診療所（昭和49年～平成16年
まで。現地域総合支援センターの建物）の
所長としてみなさんの健康を見守ってくだ
さった大山 勝先生。医師の視点から説く
「病は気から」（第7号～第37号）「心の
シグナル」（第38号～第77号）の両シリーズ
は大変好評の中、惜しまれながら終わりを
迎えました。

昭和53年から、平成14年の28年間に
わたる長期連載でした。



グループホーム第1号

〈第47号 平成3年11月〉



グループホーム「八面荘」と入居者

「地域に根ざし自立の道へ」
最初は4名の男性ご利用者から
スタートしました。現在では、
たくさんの方が地域での生活を
送っています。

ロゴマーク

〈第42号 平成2年8月〉



(厚生園)

施設独自の「ロゴ」や
キャラクターが生まれた
時期もありました。
おぼえていますか？

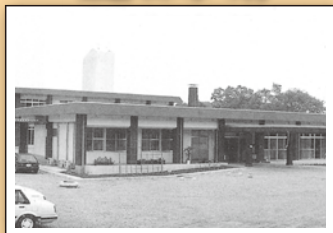
常陸宮両殿下 御視察

〈第41号 平成2年6月〉



「ハイテク福祉農園」3年目を迎えた
溪泉寮に常陸宮両殿下がご視察に
見えました。
同じ頃、日本のみならず海外メディア
からも取材を受けていました！

昭和63年4月



溪泉寮改築

事業団
20周年
(昭和62年)

昭和61年4月



事務局移転

昭和58年11月



目田はぎの園完成

表紙がカラーに

〈第44号 平成3年1月〉



事業団だよりの表紙がカラーに！
中の記事はまだ、2色刷のままでした。

福祉エッセー シリーズ

〈掲載期間：第63号～第74号〉

当時の所属長、副所属長、課長を
勤める方々が、その名の通り「福祉」
についてエッセイを執筆。

平成9年の第63号から、平成12年
の第74号まで、4年間にわたり計12回
連載しました。

事業団だより 全面カラーへ!!

〈第82号 平成16年6月〉



ついに、全面カラーでの発行が開始！
写真や絵文字などを使ったカラフルな仕上がりで
よりわかりやすく情報を掲載できるようになりました。

ホームページ開設

〈第77号 平成14年1月〉



事業団のことをより多く
の方へ知ってもらうため
事業団のホームページを
開設しました。
その後リニューアルし、
各施設の紹介や職員募集
などを行っています。
現在では、事業団PR映像
も見るができます。

ホームページ 開設!

大分県社会福祉事業団のホームページができました。当事業団の各施設の情報が、自宅や職場のパソコンから知ることができます。下の「事務局ホームページアドレス」にアクセスし、気軽にホームページをのぞいてみてください。ご質問・ご意見等ありましたらお寄せ下さい。お待ちしております。

事務局ホームページアドレス
<http://www7.ocn.ne.jp/~oitaswo/>

平成20年4月

事業団
40周年
(平成19年)

平成17年4月



糸口学園 児童デイ
どんぐりオープン

平成21年4月



地域総合支援センターオープン

平成17年4月
県から施設の土地・
建物の全部譲渡

平成18年12月



糸口厚生園改築

平成15年10月



コミュニティ施設ほっぷオープン

平成16年3月
糸口福祉センター
廃止

事業団
30周年
(平成9年)

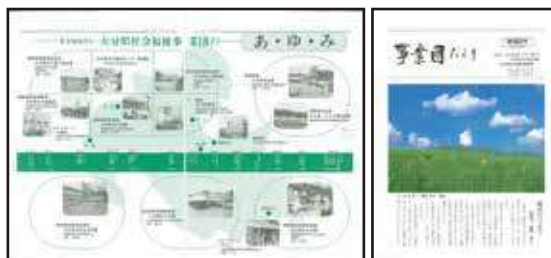
平成4年11月



糸口学園改築

第50号 記念特集号で3色刷に!

〈第50号 平成4年10月〉



すすめレシピ シリーズ

〈掲載期間：第89号～第98号〉

第89号からスタートし、第98号
の栄養士さんにおすすめレシピを
いきました。

すまいる工房大福で販売している
とができるレシピを紹介しました。



コーヒースタイル

〈掲載期間：第56号～第75号〉

毎号2名の職員さんに、特にテーマは決めず、自由に書いて頂いていました。
何気ない日常をふと振り返り、自分を見つめ直すことで色んな物が見えてくる。
「コーヒースタイルでも飲みながら、
ちょっとひと休み…」

北から南から

〈掲載期間：第23号～第75号〉

大分県の北から南から…県下に広がる事業団施設のご利用者や職員、たくさんの方々よりエッセイや旅の思い出、自慢の作品を募集し、紹介しました。

中には素敵な詩集や力強い書道の作品などもありましたね。



事業団だより 100号

事業団だより

～わたしからあなたへ… まごころ発信～

創刊号からこれまで、100号、約40年間にわたり皆様にご愛読いただいています。

今回、このページでとりあげた以外にも季節の行事やスポーツ大会、身近な話題も大切な思い出です。

お気付きの方もいらっしゃるかと思いますが、タイトル「事業団だより」は創刊からこれまで同じで、変わっていません。

これからも末永くよろしくお願い致します!!

平成23年 3月



なほみ園改築
ワークプレイスなごみオープン

平成24年 7月



地域生活支援センターはぎの完成
こどもデイサービス ひーす オープン

平成23年 11月



糸口第二厚生園改築

平成22年 11月



のぞみ園改築

事業団
50周年
(平成29年)

平成25年 3月



糸口通勤寮改築

平成24年 1月



すまいる工房太福万田店
オープン

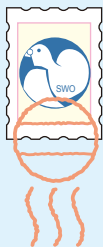
平成23年 4月



糸口学園 児童デイ
どんぐり2 オープン

平成20年の
までに全施設
紹介してもら
第99号では
商品で作るこ

100号に寄せて



〒000-0000

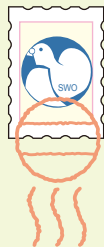


日田はぎの園

副園長 神力 一道

昭和62年「20年のあゆみ」編集時に、事業団機関紙発行の欄があった。「事業団だより」の創刊号には当時の立木理事長が、この機関誌が施設運営の発展充実に必要な職員共通の「ひろば」として活用される旨の文章とともに題字の提供があった。

以来内容は変遷しつつも100号目の発行となった。立木理事長の筆が現在まで続いている訳である。節目節目で題字変更の話があり創刊の事情を知っている職員により守られてきた。今後とも伝統を継承し、広報紙としての役割を果たしてもらいたい。



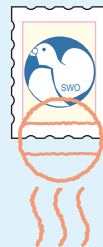
〒000-0000



のぞみ園

自治会長 佐々木 つぎ子

事業団だより100号おめでとうございます。最近では3年前の「のぞみ園を訪ねて」という特集でのぞみ園での暮らしについて取材を受けました。今、のぞみ園での暮らしの中で楽しみのひとつは、園の周りの散策です。季節の移りかわりや植物の成長を毎日感じています。自分の暮らししているところを外から見ること、気持ちも大きく変わります。皆さんにも、外へ出て、新鮮な空気や風を感じながら毎日を健康に楽しんでもらいたいです。



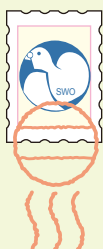
〒000-0000



すまいる工房大福

松尾 剛

「事業団だより50号」にて将来の夢を話して頂いた松尾さん（当時…通勤寮）現在の生活は？現在はアパートでの生活、結婚もして夫婦二人暮らしです。寮とは違って全てが「自己責任」。大変ですが頑張っています。料理は出来るようになりましたが、整理整頓は今でも苦手です。仕事は環境美化をしています。備品製造等の仕事もしてみたいです。趣味は釣りやソフトボール。チームを作って皆で試合をするのが、今の夢です。



〒000-0000



糸口通勤寮

支援係長 赤坂 智恵

99号を手にした時、リーチをかけた気分になったのは私だけではないだろう。一口に「99号」と言っても、年間2回の発行を考えれば、改めて事業団の歴史の深さを感じさせられる。

この私も、事業団職員となって四半世紀になる。事業団だよりは採用された当時からもれなく大事に綴っているが、原稿依頼を受けた先日、数年ぶりに読み返す機会を得た。号を重ねる毎に新聞社並みの編集になっていく変化に驚かされるが、その中で最も記憶に残るのが39号だ。申し訳ないが、理由には内容ではない。発刊後に反省コメントを求められ、そこにいた誰もが気づかなくったこと「背が糊づけられてめくりやすい」を口にして、当時の上司から褒められたからだ。理由はもう一つある。私のデビューだから！どんな内容かって？それは実際に確かめて下さい。



〒000-0000

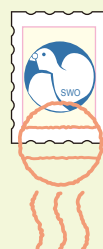


湊泉寮

看護係長 大野 富恵

事業団だより創刊100号とのことで、継続の力のすばらしさを感じます。これまで、職員や利用者の状況を色々と工夫して掲載されており、今後も継続されることと思います。

私ものぞみ園勤務中に身体障がいの方に対する看護について原稿を書きました。今は湊泉寮で障がい、疾病の違いはありますが、健康管理、よりよい看護支援が行えるかを考えながら勤務しています。今後も、事業団の基本方針を念頭に、ご利用者個々に合った看護サービスの支援に努めていきたいと思っています。



〒000-0000



なおみ園

地域課長 徳田 宏幸

「継続は力なり」と言われますが、100号を迎え広報委員の方々に改めて感謝いたします。20年前生まれたばかりの長男の写真が白黒で掲載されたのが嬉しいのと恥ずかしいような複雑な心境であった気がします。近年は目まぐるしく変化している福祉施策に対応した情報や各事業所・施設の特徴ある取り組みをオールカラーで紹介、「事業団」ってこんなに大きく特色のある法人、「事業団愛」を改めて感じている方も少なくないと思います。今後も、「事業団だより」が、ご利用者・ご家族・各地域・職員を結ぶ架け橋であってほしいと願います。



〒000-0000



のぞみ園

主査 林 和男

「事業団だより」の発刊がこの度100号を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。この話を受け職場にあるだよりの綴りをこつそりと読み返すと、私は第52号からの付き合いで約半分は見えてきたことになります。思えばその時代の旬な情報を知り得たり、「へえ」と感心しながらいつも楽しく拝見していましたことを思い出します。これからも元氣な姿を魅せる、伝える「事業団だより」を発行していただければと思います。



〒000-0000



地域総合支援センター

主査 溝口 美和

100号。『続いている』って凄いことだと思う。必要とされている証みたいなものかな、と。同じく事業団広報紙「ひだまり」って、いつの間になくなっていく。必要の度合いを計るのは難しい。でも面白い。書く人と読む人のつながりの度合いかな？『続く』と『つながる』は似ている。続くからつながる、つながるから続く。100号は「飛躍号」！これからの発行も楽しみにしています。



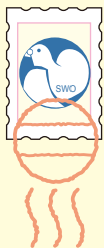
〒000-0000



糸口学園

主査 近藤 也賢

私が事業団に採用され早35年が経とうとしています。思い起こせば就職当時の事業団だよりは、白黒のモノトーンで編集されていました。現在の冊子は、表紙を見るだけでも急いでページをめくってみたいと思わせるような工夫もされており、実際にページをめくると他施設の各種催し物や新事業、現事業の紹介が多種多様に掲載され、情報の共有にとっても役立っています。自分が施設に足を運んでいるかのように思え、次の号の配布がとても楽しみです。編集者の方々の御苦労がいかにばかりかと思いますが、毎号の拝読を楽しみにしている人達のためにも、これからもよろしく願います。



〒000-0000



糸口第二厚生園

支援員 後藤 寛子

92号から前号まで編集に携わり、記念号にこうして参加できる機会をいただけてとても感謝しています。特に思い出深いのは96号の見開きでの変形ページです。伝えたい情報が多く「これ以上削れない」と委員全員で出した苦肉の策でしたが、その後「あんな記事にしてほしい」と取材先で耳にすることもあり、新たな挑戦の大切さを実感しました。今後、ご利用者をはじめ多くの方の声を知っていただくための広報紙として続くことを願っています。



〒000-0000



糸口厚生園

書記 木戸 隆裕

私も以前、施設での広報委員を行っていました。ちょうど施設の移転・改築の時期であり、新施設のアピールを心がけながら楽しく原稿を書いていたことを懐かしく思い出しました。過去に勤めていた施設の記事を見ると、ご利用者の元氣な顔が伺えたり、施設の様子を知ることができたり、その度に「広報紙があつてよかった」と思いながら拝見しています。これからも、200号、300号と続くような、皆に愛される、楽しい広報紙であり続けてほしいと思います。



〒000-0000



地域生活支援センターはさの

主任支援員 高倉 祐子

事業団だより第100号、おめでとうございます。毎回、工夫を凝らした内容で、楽しく拝見させていただいております。広報委員の皆様には、業務のお忙しい中での広報活動に、感謝申し上げます。私が採用された当時、先輩に白黒B5判の事業団だよりを見せられた時は、事業団の歴史を感じさせられました。これからも、事業団の歴史と共に、日々努力を重ねて参りたいと思います。

新採用職員紹介

平成25年4月1日に大分県社会福祉事業団に新しく採用された職員に質問をしました！

今年度は37名が仲間入りしました。その中から、紙面の都合により、10名の方の回答を紹介します。

質問

① 休日の過ごし方は？ ② これだけは譲れないこだわりは？ ③ 採用からこれまでに感じたこと ④ これからの抱負を4文字でお願いします ⑤ 好きな言葉は？ ⑥ 好きな本の題名は？ ⑦ 入団したきっかけ



地域総合支援センター 支援員 高松 政義

- ② 色々な事を譲ってきました
- ③ 責任の大きさを感じています
- ④ 初志貫徹
- ⑤ 未来は想像の範囲内



湊泉寮 支援員 樋田 葉子

- ② ショートケーキはイチゴから食べる
- ④ 質実剛健
- ⑥ 「ラッシュライフ」
- ⑦ 実習で自分が感じたことが事業団の理念に共感する部分があったため



のぞみ園 支援員 轟 英樹

- ① ドライブをしたり、温泉に入ったりします
- ② 学ぼうという気持ちと、思いやりの精神
- ⑤ やがて人生の勝利者となれ
- ⑦ 高い専門性のある職場で知識・技術を身につけたかった



糸口学園 支援員 田中 麻以

- ① 家族や友達と美味しいものを食べに行きます
- ⑤ 日々努力、日々成長
- ⑦ 説明会で事業団のVTRを拝見し、自分もここで働きたいと強く感じたからです



糸口厚生園 支援員 豊島 主晃

- ① ハイキング
- ③ 楽しい職場です。良いメンバーに恵まれています
- ④ どりよく
- ⑤ いつやるか？ 今でしょ



糸口第二厚生園 看護師 長田 良美

- ① 家族で公園
- ③ 事務的仕事の多さにびっくりしている
- ④ 七転八起
- ⑥ 「夜行観覧車」



糸口通勤寮 支援員 井上 美沙緒

- ② こたわらないこと
- ③ 施設ごとに業務の内容や支援の方法は違いますが、「おもてなしの心」は同じだと感じました
- ⑤ ケ・セラ・セラ ⑥ 「姑獲鳥の夏」



なおり園 書記 阿部 誠也

- ① ドライブ、姪っ子と遊ぶ
- ② 夏はポロシャツしか着ない
- ③ 責任を持ってやらなければと思った
- ④ 一生懸命



日田はぎの園 支援員 三崎 芳友

- ① バスケットボールの指導
- ③ 業務の大変さと、ご利用者に対する責任の重さを感じています
- ④ 日進月歩
- ⑥ 「SLAM DUNK」



地域生活支援センターはぎの 支援員 松尾 ナツミ

- ① 家事、終わればのんびり
- ② 朝食は必ず摂る
- ④ 誠心誠意
- ⑦ 人と接する仕事が好きで、事業団で十数年お世話になり、入団の機会を頂きました

～ご協力ありがとうございました～

2013年夏 福祉のしごと 就職フェア

日時／平成25年8月4日(日) 受付 12:00 面談 13:00～16:00

場所／大分市明野東3-4-1 大分県社会福祉介護研修センター

事前のお申込みは必要ありません。

ブースを設けていますので、お気軽にお越しください。



大分県社会福祉事業団 平成25年度 職員採用試験

■ 総合職採用試験

日時／平成25年8月18日(日)

場所／大分県総合社会福祉会館 4階

■ 一般職採用試験

日時／平成25年11月10日(日)

場所／大分県総合社会福祉会館 4階

詳細は当事業団
ホームページに掲載します。
URL: <http://www7.ocn.ne.jp/~oitawo/>

編集後記

今回100号記念号として、事業団が歩んで来た道を皆様に少しでも分かりやすく伝えようとしたら、かなりの変形冊子となりました。

紙を素材とした記録媒体として、紙面を『開く』と道を『拓く』を掛けてみました。ページをめくったときに、今までの道とこれからの道を想像していただけたなら、表現方法として成功なんです。

今後時代が変わり、「事業団だより」が電子媒体となって個人のタブレットへ直接配信されるようになるのかもしれない。もし将来記録の媒体が変わっても、上記の新採用職員が中心となって、「事業団だより」を編集してくれたなら嬉しく思います。

事業団だより第100号編集委員
委員長 久保 英之
委員 小川 由夏 梅崎 真吾
伊藤 優子 森山 さゆり
高橋 悠